

ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 〔2021年8月3日放送分・南材木町／竹屋横丁〕

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 先月は、愛宕橋下流の取水堰に寄り道しました（辻標もありましたが）。今回は奥州街道に戻り、江戸へ向かう旅人となって若林区南材木町を歩きます。
- この地名、今では「チョウ」と読みますが、このコーナーでは、歴史的な読み方を踏襲し「みなみざいもくまち」とお伝えしました。町人や商人の町は、原則「マチ」と読むのでしたね。（2020年2月4日放送分参照）
- 奥州街道沿いの南材木町には、金刀比羅神社があります。小さなお社ですが、船の守り神である「こんぴらさん」がなぜ、こんな所にあるのでしょうか？
- 木村さんもたしかなことは調査中だそうですが、船に関係する人々が集まった舟丁が近いからではないか、とのことでした。

- 今回の辻標は「南材木町／竹屋横丁」です。南材木町は、寛永初期の城下拡張の際、材木供給のために割り出された区画です。当初は「若林材木町」と呼ばれていました。材木その他、煙草の専売権も与えられていたそうです。竹屋横丁は、文字どおり竹職人がいた町。竹は日用品のほか弓矢、旗竿、建築用材などに幅広く使われ、藩の特別な保護育成がなされた品目でした。
- それにしてもこの界隈、昔の雰囲気を残す土塀造りの建物がいくつも見られます。前方に見える河原町のツインタワーの威容が、対照的です。麦わら帽子がよく似合う木村浩二さんと、1枚パチリ。2人とも、取材日の炎天下を頑張って歩きました！
- 〈文・佐々木淳吾〉

